

レジデンシャル事業「芸術監督」（事業分野：舞踊）の公募について

令和8年7月15日

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

当財団と共に、目標実現に向かって進んでくださるレジデンシャル事業「芸術監督」（事業分野：舞踊）を公募いたします。公募の骨子は以下のとおりです（公募要項発表は7月末、応募受付は8月以降を予定）。ここ新潟の地において、新潟市・当財団と協力して新たな活動のフィールドに挑戦してくださる方のご応募をお待ちいたします。

1. 歴史的背景

新潟湊は江戸時代から日本海交易の重要拠点であり、北前船や川舟が行き交い繁栄しました。各地の歌や踊りが持ち込まれ、独自の文化が形成されてきました。江戸時代には町民が四日四晩踊り明かし、現在も市民の手によって多様なジャンルの踊り手が集まる大規模イベントが開催されています。江戸時代から今に続く日本舞踊宗家、国内大会で上位常連の高校生創作ダンスなど、多様な「踊り文化」が息づいている土地です。

2. これまでの取り組み

2004（平成16）年、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館を拠点とした我が国唯一の公共劇場専属舞踊団として Noism Company Niigata が活動を始め、優れた舞踊作品の創造と国内外での公演を積み重ねました。2021（令和3）年、新潟市はそれまでの成果と課題を検証し、持続的な発展・成熟を目指して「りゅーとぴあのレジデンシャル制度」(※) を制定しました。これ以降、舞台公演と共に小学校への訪問型アウトリーチや社会包摂を意図したワークショップ等を展開してきました。

3. 事業分野を「舞踊」とする理由・目標

舞踊は、基本的に「言語」を用いず、人が有する「身体」によって表現する舞台芸術です。人と人とを隔てる言語・国境・民族などの様々な障壁を飛び越えて、見る人の心に直接働きかけることのできる強い訴求力を持っています。

この度、当財団は新潟市と協議し、「りゅーとぴあのレジデンシャル制度」に基づいて行う2027（令和9）年9月1日からの5年間の事業分野を、引き続き『舞踊』とすることにしました。この事業を、「踊り文化」の文化的土壌に富んだ新潟市において行うことで、大きな文化的成果が生まれることが期待できます。当財団は『舞踊』によって、この地に生きる方々の毎日がさらに豊かになること、美しさを知る機会となること、人と人とがつながることを目指します。そして、市民の皆様から広く愛される舞踊事業を展開し、多様性に富んだ地域づくりに貢献したいと考

えています。今回の公募は、この 2027 年 9 月 1 日からの事業分野「舞踊」の芸術監督を公募するものとなります。

4. 公募の概要

(1) 募集職・定員・事業分野

レジデンシャル事業「芸術監督」1 名 事業分野「舞踊」

(2) 芸術監督の役割

芸術監督は、この事業における芸術面の責任者であり、運営面を財団と共に担う役割があります。詳しい内容については、後日発表する「公募要項」をご覧ください。

(3) 任期・着任時期

第 1 期 5 年間：2027（令和 9）年 9 月 1 日～2032（令和 14）年 8 月 31 日

※任期開始日から任期中は継続して、居住地を新潟市としてください。

※第 1 期任期の 3 年間が終了した時点で事業評価を行い、新潟市・有識者の意見を聞いた上で、当財団から 2037（令和 19）年 8 月 31 日まで任期更新の要請を行う可能性があります。

(4) 運営体制・初回公演

① 運営体制 応募時にご提案いただく「事業構想」をもとに、相談して決定

② 初回公演 2027 年度内に実施

(5) 応募書類の内容

① 志望動機

② 事業構想

③ 芸術活動歴

④ 舞踊作品に関する動画 等

5. スケジュール（予定）

2026 年	7 月末	公募要項・事業概要発表
	8 月	応募受付開始
	10 月末	応募締切
	11 月～12 月	審査（書類、面接）
2027 年	1 月～2 月	次期芸術監督候補と事業計画協議
	3 月	次期芸術監督決定、事業計画と共に発表